



# popo

2011年  
第2号

## ポポ

社会福祉法人 蒼生会 広報委員会発行

社会福祉法人蒼生会  
保育園ピノ 園長 東 由美



平成二十二年四月に社会福祉法人蒼生会保育園ピノはJR横浜線古淵駅から徒歩三分程のビル二階に開園しました。園児数五十一名、職員十八名での出発でした。理事長がブドウの品種、ピノ・ノワールから取り「保育園ピノ」と名付けられました。ピノ・ノワールは気候・土壌等の環境によって微妙に味が変わります。これは子どもを育てることに同じ事が言えます。私たち職員が良い土壌になり、環境を作り上げ、子ども達一人ひとりの心の中にある各々の種が健やかに成長していき、私たち職員は、子ども達の生きていく力を信じて、この大切な幼児期と一緒に過ごし、手伝うことだと思っています。

保育園ピノはビルの二階にあり、大きなテラスがあります。お散歩に行く日も多いですが、子ども達はこのテラスが大好きで、朝・夕とテラスで遊んで過ごしています。保護者からの土と

触れ合う機会を多くもたせて欲しい、そして職員からの土と触れ合う時間を持ちたいという願いを受け、保育園モモから古いプールを譲ってもらい、夏には土を入れて泥プールを作り、みんなで泥こになつて遊んでいます。去年は少なかつた植物もだんだん増えてきて日陰もでき、大きな木を切つて作った木株等、少しずつ職員が協力し合つて作り、テラスの雰囲気も変化してきました。春のおまつりでは卵探し、夏にはプールや泥遊び、秋にはプランターで採れたサツマイモを蒸かして全員で食べたりしています。土はありませんが、広いテラスを最大限に活かしてこれからも子ども達と過ごしていきたいと思っています。

そのように一年を過ごしやつと地域に根差した保育園を目指して動くことが出来るようになってきました。七月には地域の夏祭りに招待され、九月には自治会主催の防災訓練に参加し、炊き出しの体験もする予定です。ご近所に畑を借りて、さつまいもの苗を植えたりするなど、地域の方々と触れ



合う機会も持てるようになってきました。少しずつ地域に受け入れてもらえるようになって、

地域の情報も入るようになりました。開園する前から近所の方々は、交通の激しい場所に保育園なんて危ないのではないかと心配してくださっていたこと、今も子ども達が歩いていけると事故がない様にと思いながら見守ってくれることもわかってきました。今後は、利用者である保護者の方々、地域の方々和私たち職員が協力し合い、私たち大人が子ども達に与つての良い環境(土壌)となるように、信頼関係を築き、助け合いながら子ども達を見守っていきたいと思っています。保護者の方々が安心してピノに子ども達を預けることが出来るようにするには何が大切かということを考え、まず今年は、職員全員が園児とその保護者の現在の状況を把握できるように、職員間の申し送りを確実なものにしたいと考え、朝の申し送りの他に昼食後の子ども達の午睡時間は、参加することが出来る職員で行う短時



間ミーティングを開き、各クラスの子ども達の様子、保護者からの伝言、各部署からの報告、注意事項の確認をすることにしました。そのことよって全職員が保育園の利用者の方々を少しでも丁寧把握できるようになればと願っています。

まだまだ、不勉強、足りないところが多々あり、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、これからもご指導、ご協力をよろしくお願いいたします。そして最後に、保育園ピノの開設に多大なる力を注いでくださった、理事長、保育園モモ園長、並びにその他の方々に、心より感謝申し上げます。

お神輿に寄せる想い

今年の神輿は特別な日になった。東日本大震災からちょうど六ヶ月、アメリカの9・11テロからも十年。偶然とは言え、人類にとって、自分にとっても何か大きな節目を感じる。目の前で繰り広げられる祭囃子はいつも厳かだが洗われる思いがする。涙を浮かべながらじっと見つめる車いすのお年寄り、無邪気に走り回るはつぴ姿の子供達、いつもと変わらない景色が目の前を駆け巡る。祭りの起源は古く、

五穀豊穡、家内安全を願う神聖な舞台から庶民生活の中にとけ込んだ日本人特有の心の表現と想っている。地域を迎え、地域に根差す。心が一つになる時、大きな安心と笑顔が迎えてくれる。福祉が地域に出来る事、地域が福祉に求める事、「共生と自立」に表現される、集団生活の中で充実した生き方、チームワークと創造性を発揮した組織の在り方など、毅然とした中にも少しの迷いもない姿を自分にそして地域に向かって広く表現していきたい。「和を以って貴しと為し・・・」古からの教えを思いださせるような余韻を感じながら眺めた、今年の日枝神社祭礼のお神輿だった。



カシオペア祭



私は今回で二度目の、カシオペア祭実行委員を務めさせていただけました。「地域交流」ということを考えた結果、誰でも気軽に踊れて、どこか懐かしいものとして盆踊りに決めたのです。

ボランティアの方四名を講師に招き、花笠音頭・炭鉱節・相模原音頭を教わりました。花笠音頭が特に難しく、汗を沢山かきながら練習しました。特養のフロアでも、曲を流し職員が踊ると、利用者の方々も一緒に踊って踊っていました。

「盆踊り楽しみにしているよ!」  
「絶対見に行くから頑張るね!」  
数々の応援の言葉が、私達の力になっていました。特養の出し物のもう一つは、宝釣りゲームです。一昨年のお祭りの時から作り始めている、アイロンビーズ。子ども達に人気がある為、今年もコツコツと製作しました。年々バリエーションが増え、立体模型やキャラクター等、数多く作りました。中には趣味と化している職員まで・・・(笑)  
今年度の実行委員が発足してから

約半年、あつという間に当日を迎えました。お揃いの浴衣に身を包み、いざ本番へ。多くの方が見守って下さる中、のびのびと踊る事ができました。手拍子や「きよし!」と叫ぶ声、笑顔で輪に入って下さる方や泣き出してしまおう方・・・小さい子どもも、慣れた手付きで踊っていました。仕事をしながらの準備は、大変な事も多くありました。しかし振り返ってみると、充実した半年だったと思います。来年度も、地域交流において、皆が一つになれるようなお祭りになってきたいと思えます。

(カシオペア祭実行委員 大類 里恵)



## 保育園モモの園庭が新しくなりました

園庭工事の様子を毎日楽しみに見ていた幼児クラスの子ども達。ショベルカーや、見慣れない道具を扱う職人さん達の姿にすっかり見とれていました。

新しくなった園庭には、大きな山と小さな山、長いトンネル（もぐらのトンネル）、山と山をつなぐ一本橋、広いウッドデッキがあります。草木も増えました。ウッドデッキでごろごろ寝ころんだり、一本橋をそーっと渡ったり、賑やかに遊ぶ子ども達の声が園庭に響きわたっています。



## 風船バレー大会



六月十一日あいにくの雨でしたが、モモにて、他施設を招いて風船バレー交流会を開催しました。参加施設は、中の郷さん、ひまわりさんです。初めは緊張されている利用者さんもいましたが、大会が始まると緊張感もほぐれ、一つの風船に皆さんが集中し普段と違う表情や、一面が見られ、時には真剣な表情も見られていました。どの施設の利用者さんも素敵な笑顔が見られ大成功に終わったかと思えます。昼食会では、他の施設との交流がもて、利用者さんに限らず、職員同士の交流もとても良かったと思えます。短い時間でしたが、有意義な時を過ごしたと思えます。風船バレーの順位は一位中の郷さん、二位ひまわりさん、残念ながらモモは三位でした。

利用者さんからは、悔しかったとの声も聞かれたので、是非次回に期待したいと思います。

## ケアハウス保育園交流会



ケアハウス モモでは、世代間交流の一環として毎月一回、施設の隣にある保育園 モモの園児との交流会を開催しています。

こどもと触れ合う事が出来るため毎回参加される方も多く、「心がなごむ。」「かわいいこどもたちと もっとふれあいたい。」など、人気のイベントとなっています。

交流会では誕生日のご入居者を園児たちがお祝いしてくれます。他にも、一緒にボール回しをしたり、手遊びをしたりとご入居者もこどもたちとの楽しい時間を過ごされています。

## デイサービス盆踊り&かき氷

今年も八月八日～十二日の五日間で、デイサービスの一大行事でもある。「夏祭り」を午後のプログラムで開催致しました。内容は各曜日にボランティアさんを招いて盆踊り大会。今年は曲目が豊富で、定番の炭坑節、東京音頭、相模原市民はお馴染みの相模原音頭に、盆踊りには珍しい黒猫のタンゴなど。利用者の皆さん、ボランティアさん達と楽しい夏の思い出を作ることができました。盆踊り大会が終わったあとは、三時のおやつに夏の風物詩でもある「かき氷」トッピングには、イチゴ、メロンシロップ、カルピスのぶどう、パイナップル。女性に人気の練乳、小倉と皆さん美味しく召し上がってくれました。職員は盆踊りをマスターしたとか、しないと…もっと踊りに磨きをかけて、また来年も皆さんと一緒に夏を満喫したいと思います。お楽しみに♪



